

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成17年9月分)

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	調味材料製造業	醤油の9月度出荷量は、前月比マイナスだったが、前年同月比では若干増加した。9月度での前年同月比プラスは久しぶりのこと。
	パン・菓子製造業	金沢の土産品として菓子名がテレビドラマやテレビ番組に出ると、問い合わせが殺到して売上に結び付く。観光雑誌に宣伝したり、通販に出したりと努力している。
繊維・同製品	その他の織物業	定番品の減少が大きい。スポット的な小ロット生産依頼が多く、短納期化も定着してきた。また、従来の受注時期が変動となり、生産効率が低下し計画が立てられない。付加価値製品については、安定生産されている。
	織物業	原油価格の上昇が原材料の上昇や副資材費の上昇につながり、経営を圧迫している。
	織物業	絹分野では海外激安製品の圧迫が更に強まり、多品種・極少ロットの発注に終始し、中国元の切り上げも原材料の生糸だけが高騰し、過去の幾多の困難より増して厳しい状況で推移している。合繊分野では創造性・企画力を備え、少ロット・短納期に対応し、ブランド品等の厳しい品質要求に応えられるインテリア・カーテンやマイクロ繊維など差別化織物分野で受注を確保している商品、企業も見受けられるが、これらに対応できない企業はまったく仕事が無くなる非常な時代となった。高品質対応と強い低コスト要請や開発費の増大、圧迫により採算性は厳しい。
	ねん糸製造業	仮燃り企業において受注量確保のため、工場拡張が見られた。長極細ナイロンにおいて、伸縮性のある極細繊維はスポーツ衣料に需要があるようだが、エネルギー事情のコスト高騰が先行きに懸念材料と見受けられる。
	その他の織物業	9月度は、昨年9月に比べ15%の大幅な売上落ち込みとなった。今年は早い段階から売上落ち込みが始まり、8月、9月は過去にない落ち込みとなり、厳しい状況を迎えている。現時点でも一向に回復兆候がなく、今後、業界全体がどのような方向へと向かうのか予断を許さない厳しい状況が続くそうである。
木材・木製品	製材業、木製品製造業	依然として需要の低迷が続いている。
	製材業、木製品製造業	9月度は、プレカットで当月より加工賃を一部値下げをした。売上条件が悪化し、仕入れ価格は逆に、為替の影響もあり需要は不足がみで非常に条件が悪くなってきている。このあとの需要を特に気に掛けている状況です。
窯業・土石製品	砕石製造業	9月の組合取扱い出荷量は対前年同月比生コン向けマイナス3.5%、アスコン向けマイナス30.5%といずれも減少し、前月まで全体量を下支えていた金沢地区生コン向け出荷量が11.5%落ち込み、9月全体出荷量は7.6%減少した。4~9月の上半期ではアスコン向けマイナス5.1%減少したものの、生コン向け4.7%、全体量でも4.4%と増加となっている。
	陶磁器・同関連製品製造業	売上額の推移として昨年度比3割程度の落ち込み。バイヤー向け見本市の開催や新商品見本市等を行い、現況打破への取組みを進めている。
	生コンクリート製造業	県内の生コンクリートの出荷状況は、17年9月末現在、前年同月比96.4%とマイナスの出荷量となった。9月の地区状況は、南加賀、羽咋・鹿島地区でプラスとなったが、他の地区(金沢、鶴来・白峰、七尾、能登)はマイナスとなった。官公需及び民需で見ると、官公需は、金沢、七尾地区でプラスとなったものの、他の地区は全てマイナスとなり、全体としては前年同月比88.2%と落ち込んでいる。一方、民需は、南加賀、金沢地区で伸びて、他の地区はマイナスであったが全体としては116.4%となった。県全体を4月~9月までの累計で見れば、金沢地区はプラスで推移しているが、他の地区はマイナスで厳しい状況で推移している。
	粘土かわら製造業	石川県産瓦も9月21日より2%の値上げを通知し、各お客様に了承をもらう事が出来た。油、ガス高騰分の半分程度は今回の値上げでカバー出来ると思われる。
鉄鋼・金属	一般機械器具製造業	当団地の多忙さは異常な位活況である。原材料等の値上で原価高になり豊作貧乏にならないければ良いがとも思う。工場の不足もあるが納入するまでの在庫するのに、倉庫の不足もあり、場所を探している企業が何社もある。
	非鉄金属・同合金圧延業	前月と同様、特に変化は認められない。
	鉄素形材製造業	鑄造工場の形態によって多少の変動はあるものの、景況には大きな変化は見られない。

情報連絡一覧票

(石川県中央会・平成17年9月分)

	鉄素形材製造業	前月同様各指標に変化は生じていない。当工業団地内の2~3社の経営者の最近の景況について話を聞いてみると相違がある。景況が回復している（昨年度より収益面で改善している）、景況の回復はない（昨年度より収益が悪化している）、と企業間及び業種間において差異があるが、総じて順調に推移しているように思われる。	
	機械器具の生産	石油価格の高騰が仕入材料にはね返る心配あり。	
	一般機器	機械、機械器具の製造又は加工修理	最近の鉄工業界は比較的好調で、政府の「踊り場」を脱却したとの宣言を裏打ちしている状況ではあるが、一方で自助努力では如何ともしがたい原油高や原材料価格の高騰など懸念材料がある。また依然として中国に代表される東アジア諸国との貿易問題も大きな問題として残っており、また2007年問題に代表される労働力不足、特に現場の技術者不足などが懸念されており、技術伝承が問題となっている。先頃、政府では技術のデジタル化で技能者育成をはかる道を探っているようだが、果たして成功するのだろうか。技術立国「日本」が危惧される。子供達のゆとり教育も大事だが、このまま理科系教育がおざなりになると、日本の将来が危うくなるのではないか。
		プレス、工作機械	平成18年度の採用に関して、特に大学卒（技術系）に未充足の企業が発生している。売上、受注とも好調に推移しています。但し原材料、原油の高騰を価格に転嫁することができません。
機械器具及び其の他金属製品の製造		小松関連企業を中心に好調に推移しているものの、原材料費や物流管理費の高騰が収益を圧迫している事は否めない。	
	機械金属、機械器具の製造	繊維機械関連の売上が前年同月比で50%超の増となっており、その他の業種も安定しているので、総体として売上増となった。操業度は相変わらず高水準を維持している。一部には人手不足の声が聞こえ、臨時のパートも必要な人数の確保に苦労している模様。	
その他の製造業	漆器製造業	9月シーズンに入って百貨店の店頭商品入れ替えが行われたが、漆器製品については動きが著しくなく早くも商品入れ替えの行われている店があるなど引き続きデパート業界は厳しい状況にある。また量販店市場でも漆器は昨年対比約10%の落ち込みと見られプロパー商品の仕入れロットも減少傾向にある。	

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
卸売業	繊維品卸売業	原料（原糸）が国内で生産されていないものを使用している産業（繊維産業）は円安でコストが高くなり利益を圧迫している。合織・絹織物とも苦戦である。
	農畜産物・水産物卸売業	魚の市場外流通の増加で中央卸売市場の取扱量が相変わらず減少している。
	一般機械器具卸売業	NTTドコモ、大型スーパー、介護施設などの新築、改装需要がそこそこあり売り上げを確保できたようです。しかしながら箱物（民間建設物件）は、極めて利益率が悪く、忙しかった割には全体の利益はよくありません。住宅需要は、伸び悩んでいますがオール電化（IHなど）は定着しつつあり楽しみです。全体的には、景気回復感がありますが、利益率はあまりよくありませんでした。
小売業	燃料小売業	9月も仕入れ価格が上昇し、過去の未転嫁分と合わせ小売価格も値上げとなった。法人向けなどの掛売顧客は連続となる値上げに抵抗もあり、満額転嫁できず収益的には厳しい経営環境が続いている。消費者の買い控えやフルサービスからセルフサービスへの移動も現れている。10月も仕入れ価格が値上げとなり、7月から4ヶ月連続となった。県都金沢でも130円時代に突入か。
	機械器具小売業	9月初旬残暑が厳しかったが、ルームエアコン・冷蔵庫等の夏物商品は全般に不調で前年を下回った。一方デジタル家電品は前年比では単価ダウンが大きかったが、台数が前年を上回り金額ベースでは僅かながら伸びた。結果、トータルでは前年並みを確保出来た。10月から始まる合展を機会に年末商戦の盛り上がり期待する。
	男子服小売業 婦人・子供服小売業	個人消費が持ち直し傾向を辿っているとのことであるが、現状、地元の衣料品小売業は相変わらず伸び悩みである。一方、例年より平均気温が若干2~3℃高めに推移し、客単価も伸びず、前年度クリアーができなかった（前年比98.5%）。次月度より本格的に秋・冬物シーズンとなり、また「ウォームビズ（ドレスアップ）」を考慮して売上高増を期待している。
	鮮魚小売業	異常気象で高温が続き、例年の台風も大型であった。ただ今年は主に太平洋側に向けての被害が多く、比較的日本海側の漁獲云々には影響が無かったようである。
	他に分類されない その他の小売業	9月は3連休が2回あり、またミドル・シニア層のお客様が多かった。和菓子体験の催し物が人気で、多くのお客様に来館して頂いた。

情報連絡一覧票

(石川県中央会・平成17年9月分)

非 製 造 業	百貨店・総合スーパー	9月の売上は予算比84.5%、前年比94.2%という結果であった。前半は昨年並みを推移していたが、後半（連休）は良くなかった。販促としては、「秋の収穫祭」として、恒例の各店顧客DMやチラシをうったが、売上が伸びなかった。但し、9月25日（日）のキャラクターショーはとても人気があり集客を呼んだが、低単価の食品・飲食の売上は伸びたが、ファッション・服飾関係の売上の伸びが無かった。部門別では、ファッションが90.3%、服飾・貴金属が99.8%、雑貨が92.8%、食品が97.4%、飲食が88%、サービスが103.2%であった。また9月末日で年間の半分なので、4月からの期間計では前年比100.6%で前年値はクリアできた。	
	米穀類小売業	北陸の新米も今月から全国米穀取引価格センター入札に上場された。価格面では平均落札価格は、9月取引では過去最安値となった。作柄も良好に推移され、作況指数102「やや良」と公表された。全国生産量911万トン、需要見通し853万トン、加工用13万トンとして、45万トンが生産過剰となると見込まれ、うち40万トンは政府買入を予定されている。民間在庫もありこの通りには推移しない。売り急ぎや価格競争の渦に巻き込まれないように対応していくことが大事である。	
	商店街	近江町市場	売上は伸び悩んでいる。
		尾張町	8月が過ぎて9月に入ると景況は回復するものだが、やはり愛知博のせいなのか、それほど回復したように感じられない。確かに、日曜祭日ごとにイベント行事が行われ、街中は賑わっているようにみえるのだけれど、よく見ればあまり店内に入っていない。ただ、イベントの出店で販売しているものをひやかしたり、つまみ食いのように特価品を手にとって・・・そんな風景が随所にみられるようだった。そして、本当に欲しいものはイベントとは別物で、ゆっくり満足の行く見方で買い物をする→そんな店に尾張町の個店はなりつつあるのだろうか。今月も下方降下は踏みとどまっているものの、目立った上昇売上は見かけられなかった。
	サービス業	旅館、ホテル	宿泊客は9月中の祝日等の連休により昨年より若干増加が見込まれたが、大手ビジネスホテルの開業等により、価格競争等に伴い各施設全般的に売上高は昨年より横ばい並びにやや好転している状況と思われる。
		旅館、ホテル	原油の高騰の影響は小さくない。万博が9月25日に終了する迄は影響大。夏休み需要の反動が9月初旬～中旬に出ている。
		旅館、ホテル	現在、旅館数は19館であり、湯快リゾート山中グランドホテルの開業によって宿泊人員は増加にある。しかし、湯快リゾートは低価格販売につき消費単価は低下。その為にも温泉観光地及び旅館のソフト・ハードの個性化、質的向上のための対策が必然的に早期に考えられる。また、今年脱会した3軒を除くこれまでの旅館では人員が7月以降わずかながら増加にある。この状況からまちづくりの成果か景気回復の現れか注目すべきである。
	建設業	一般土木建築工事業	建設工事の受注高は、前年同月比の61.8%の増となった。内訳としては、民間土木は7.6%の減、民間建築は62.9%の増となった。民間としては42.1%の増となる。公共土木は4.3%の増、公共建築は180.9%の増となり、公共としては71.6%の増となった。公共建築の増は県の体育館の大型受注の分である。
		鉄骨・鉄筋工事業	稼働率70～80%で推移している。地域間や企業間で格差が生じている。指値単価も低価で厳しい状況である。10月以降も不透明である。
		板金・金物工事業	依然として、受注状況は能登と加賀には大きく格差が生じている。特に加賀地区は受注が減少傾向にある。板金屋の得意分野である「リフォーム工事」や「雨樋工事」が減少している。受注単価は零細企業程、厳しい傾向にある。先月から比べると多少、景気は良くなっているようだ。
	運輸業	一般貨物自動車運送業	9月は軽油価格が前月比2～3円値上げ実施、10月にはさらに1円程度、そして11月にはさらに値上げが行われるのであろうか。一体何時まで値上げが続くのであろうか。9月13日に国交相がようやく原油高騰による軽油価格の値上りを運賃に転嫁出来ないトラック業界を例に挙げ、経団連や商工会議所はじめ経済団体に直接お願いすると対策に本腰を入れる姿勢を明らかにした。「実現すれば誠に有り難い」と全国トラック協会は歓迎している。
		一般乗用旅客自動車運送業	一部会社の法令違反による営業停止も現れる現状にあり、まさに未保険（社会保険）の増加や、管理不行き届きが危惧される状況である。法人会社では運転手の定着がはかれず、慢性的な乗務員募集が行われているが、募集チラシにもパート運転手や一種免許でも可能（2種養成）との苦しい宣伝合戦が続いている。繁華街での飲食店とタクシー業界との共存も無く、違法駐車のみが叫ばれている。過労な労働が強いられる中で、更に生活の維持のための他のパート労働（観光バス他）が見受けられる。燃料の高騰も4ヶ月連続で続いている。
一般貨物自動車運送業		荷主の荷動きは活発であるが、これまでリストラの一環として車輛や運転手を減らしてきたので対応に苦慮している。増車も必要と感ずるが、コスト（燃料費）が増加しているので増加しても償却費が高み採算に乗らない状況であるので当面は増車も見送りしているところが多い。	

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
小売業	燃料小売業	アスベスト使用建造物に対する処理費用の補助金導入が望まれる。
繊維・同製品	織物業	石油類価格高騰対策
運輸業	一般乗用旅客自動車運送業	最低賃金、労働時間、安全運転等の社会的問題が日常化されているので何か対策を行うべきではないか。あと、繁華街での夜間の違法駐車対策の実現（代行業の違法営業含む）。
運輸業	一般貨物自動車運送業	原油の値上がりに対し政府備蓄の一部取り崩しや、軽油引取税の上乗せ暫定税率7円80銭の撤廃を要望する。
サービス業	旅館、ホテル	金沢・白山麓・南加賀・福井県嶺北地域間の公共交通路線、二次交通システムの構築整備。JR・飛行機等ご利用の個人客対応として、広域間を自由に乗り継がれる公共交通の整備。